札幌市は、冬季五輪の札幌への招致表明をすみやかに撤回します。五輪開催に伴う巨額負担に代わる提案をします。開催費用の総額は 3400 億円、札幌市民の負担は一人当たり 4 万円、4 人家族で一世帯あたり 15 万円となり、さらに将来にわたり維持費がかかってきます。私は、将来にわたる市民負担、公共料金の値上げや行政サービスの悪化を阻止するため、ゆるぎない確信をもって冬季五輪の札幌招致に反対します。

特別養護老人ホームの建設

オリンピックを中止することで大倉山ジャンプ競技場 44 億円とリュージュ競技場 43 億円を節約し、約 600 人の特別養護老人ホーム希望待機者を救います。（任期中、年間 300 人以上の定員増を実現）

肺炎球菌ワクチンを 65 歳以上すべての市民に無料接種を

私が数多くの予防医療を提案する理由は、「すべての希望者が受けやすい」それが医療費の負担を減らすことだと確信しているからです。予防を中心とした医療政策へ転換しなければ医療費の国民負担と自己負担は大幅に増加します。「５年に１度、１人 4,400 円」です。（任期中実現）

私の提案はすべての 0 歳児にロタウイルスワクチンを

年 2 億 2,000 万円で、激しい胃腸炎を引き起こしうるロタウイルスの単価ワクチン(15, 000 円)の 1 回目の接種を、すべての希望 0 歳児に無料にします。（任期中実現）

すべての 1 歳児におたふくかぜワクチンを

年 7,250 万円で、おたふくかぜのワクチンをすべての 1 歳以上の児童に 1 回目の接種を、無料にします。（任期中実現）

すべての児童に
インフルエンザの予防接種を

年 3 億 5,000 万円で、インフルエンザの
予防接種を未就学児童 9 万 2,000 人、
小学校児童 9 万人、中学校生徒 4 万 7,000 人の
うち希望者全員に毎年 1 回目の接種を、無料にします。
（1 回だけでも健康に害はありません）　（任期中実現）

平成 28 年度を
待機児童ゼロ元年に

年 40 億円をかけ、任期中の待機児童ゼロを
目指します。現市政の統計から排除されている
希望児童を戻した上でゼロにします。
（市の待機児童対策予算は 28 億円、
人口 87 万人の東京都世田谷区の待機児童 300 人増への
対策予算は 36 億円）　（任期中、年間 300 人の定員増を実現）

生活困窮世帯の子どもへの
学習支援の国費減額分を市が負担

国の援助が半額となる今年、市は生活困窮世帯の学習支援
に圧縮方針を示しましたが、これを撤回します。大学生講師
の積極参加で、生活保護世帯の希望者全員進学に加え、就学
援助を受けているひとり親世帯に対し、年 2 億円で子どもの
進学支援、居場所づくりを行います。　（任期中実現）

ひとり親の保育士・看護師・
介護福祉士等の志望者への助成

年 1 億円の上乗せで、ひとり親の希望者のさらに
100 人が看護師、介護福祉士、保育士、鍼灸師、
理学療法士、歯科衛生士・歯科技工士、臨床検査
技師などの 16 種類の資格取得をできるようにし、
超高齢社会に必要な人材を増やします。　（任期中実現）

市内の必要な 1,000 ヶ所の
バス停をフード付きへ

総額 10 億円で、市内の必要な 1,000 ヶ所の
バス停をフード付きにします。また、地域の理解の下、
防犯機能や広告を加えていきます。地下鉄や JR 駅の
ない地域から優先的に工事を開始します。
民営化が成功すると、地下鉄へ出している補助金
70 億円が財源へと生まれ変わります。　（任期中、1000 ヶ所を実現）

すべての町内会にカラスと
雪に強いプラスチック製
ごみステーションを設置

3 億円弱で、市内すべての町内会（2,212 ヶ所）に
1 ヶ所ずつ、13 万円のごみステーションを設置し
ます。通行安全性の確保と、地域の皆様の交通安全へ
の協力の下で警察と話し合い、歩道や公道での常時
設置を目指します。　（任期中、交渉を開始）

民間委託パートナーシップ除雪の
地域負担を 9 割補助

年 8 億円を加算することでパートナーシップ
除雪の、市負担割合を 9 割にアップします。
年間平均 160 億円の除雪予算を 2 割増やし、パートナー
シップ除雪を豪雪地区中心に 2 回に増やします。　（任期中実現）

すべての小学校と中学校に
タブレットを導入

年 1 億 5,800 万円で、 4 年かけて小学校 202
校と中学校 97 校のすべてに 1 台 5 万円の多
機能携帯端末タブレットを配布し、電子授業
を行います。（1 校あたり 42 台配布、4 年更新）　（任期中、四年で実現）

1　女性・子育て支援

●子どもを何人産むか、次の子供を産むか産まないかを、補助金で決めさせるべきではありません。産まれた順に寄らず、多様な働き方の人たちにできるだけ対応し、すべての子育てを公平に支援することが、全ての人たちにとっても暮らしやすい社会になると考えます。

・札幌市は、保育料を第１子、第２子などの順によらず、一律３割負担とし、医療費はすべての小学生まで無料とします。（任期中実現）

・札幌市は、保育環境の整備を優先します。まず、現行１時間が主流の保育施設の延長保育を午後８時までの保育とし、より自由に働けるようにします。私立施設が同様の環境を整備する場合の支援をしっかりとしていきます。（任期中実現）

・札幌市は、望まない出産前の退職を回避するための政策を随時公募し、女性支援の施策を充実させます。（任期中通じて実行）

●生活困窮者自立法の平成 27 年施行に際し、財政や対象者の把握不足から道内市の６割が支援事業ゼロとなります。生活困窮者の将来への不安、それから生じるさらなる状況の悪化を防がなくてはいけないと考えます。

・札幌市は、子ども学習支援、一時生活支援に加え、新たに就労支援・家計相談を行います。（任期中実現）

・札幌市は、DV（家庭内暴力）被害者が駆け込む民間シェルターを支援するとともに、シェルターから脱する時の費用負担に関しても積極的に支援します。（任期中実現）

●児童のいじめの早期発見と対応、不登校や引きこもりの防止を図る専任の児童支援コー ディネーターは、生徒と向き合い傾聴し、置かれている環境を熟慮して本人や保護者、担任と信頼関係を築きます。

・札幌市は、小学校への、専任の児童支援コーディネーターを増やします。（任期中実現）

・札幌市は、問題児童の出席停止を弾力的に運用するため教育委員会を改革し、児童が健やかに学習できる環境を守ります。（任期中実現）

●正しい情報がないと正しい対処法が出てきません。

・札幌市は、小・中学校において全校の学力テスト結果の詳細を公表します。（任期中実現）

・札幌市は、成績下位校へは「ディレクト・インストラクション」導入の検討を行うなど、先進的な新しい教育法を取り入れて学力を底上げします。（任期中、検討を開始）

・札幌市は、中高一貫校の選抜の抽選をやめます。（任期中実現）

●札幌の小学校は電子黒板が 1 校当たり 1.9 台、電子教科書が 12.9%です。

・札幌市は、電子黒板を全学年 1 台導入し、電子教科書導入率を 100%とします。
（任期中、四年で実現）

・札幌市は、札幌市立大学の市外居住者の入学金 28 万 2000 円のうち半額を奨学金とし、市内居住者と支払額を同等とします。受給者の一定の勤労記録がある際に、奨学金返済の免除をいたします。
（任期中実現）

・札幌市は、私学へ通学する方への助成、助成の方法などの検討を開始します。
（任期中、検討を開始）

２　福祉・医療・生活

●貧困政策に関して、貧困にも度合いがあります。貧困と向き合い、さらなる貧困を予防することが、結果的に貧困に陥った方にとっても、そうでない方にとっても貧困に陥ることがなくなるというように大きく役に立ちます。水際作戦では、困っている人の原因、困っている人の人数、困っている人の状況の変化など統計に出ない部分で対処が遅れるため、結果、社会コストが大きくかかってきます。ちょっとした貧困を救うことは、大きな貧困を救うよりもはるかに社会コストが軽くすみます。貧困は個人の責にすべて帰するものではなく、社会的な病と考え、その予防と貧困の悪化を防ぎ、社会コストの増加を防ぎます。

・札幌市は、生活保護申請において、水際作戦は取りません。貧困と向き合い解決する持久戦を選びます。（任期中実行）

●ひとそれぞれの命に軽重はありません。

・札幌市は、総合的な難病対策のさらなる充実を、国に強く求めてまいります。（任期中実行）

・札幌市は、手話条例の制定の他に個別の障がいを持つ方を対象にした条例をつくり、その上で福祉のまちづくり条例に代わる統合条例をつくります。（任期中実現）

●アイヌ民族の苦難の歴史を理解した上で、前向きな政策を打ち出します。

・札幌市は、アイヌ民族と共にあるとの理念の下、文化の伝承と発信のため、国際会議への出席・開催などを支援します。（任期中実現）

●医療政策は何よりも予防に重きをおくべきと考えます。予防のコストと病気のコストとのデータがこれからはっきりとわかってくる時代になると考えます。

・札幌市は、高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯の将来像を想定した予防介護、予防医療、住まいの支援を充実させます。（任期中実行）

・札幌市は、高齢者の歯の健康は予防医療の基礎となるという理念の下、気軽に歯科ケアを受けられるような施策を導入します。（任期中実現）

・札幌市は、市民の家族が医療を求めて市外から市内に転入する場合、そのサポートをします。（任期中実行）

・札幌市は、恵まれた医療・研究環境、大学や病院と関連しつつ医療先進都市さっぽろ、予防医療都市さっぽろを目指します。（任期中実行）

・札幌市は、電子カルテやビッグデータを取り扱う民間企業・ベンチャー企業と積極的に連携していきます。（任期中実行）

・札幌市は、地域の拠点として協力をいただけるコンビニに対して、住民票取得、AED 設置などの委託契約をします。（任期中実現）

●めったにいかない大箱の施設よりも、身近で通いやすい場が必要です。五輪にかけるお金があれば、市民が普段楽しむ体育施設が建設できますし、商店街の空テナントの活用にもなります。そして、その施設は市民の健康と予防医療に貢献し、講師は民間の人たちに任せることで暮らしが豊かになることでしょう。

・札幌市は、身近に通える卓球センターをつくります。　（任期中着手）

・札幌市は、身近に通える屋内テニスセンターをつくります。（任期中着手）

・札幌市は、身近に通えるバドミントンセンターをつくります。（任期中着手）

・札幌市は、身近に通えるバレーボールができる場をつくります。（任期中着手）

・札幌市は、身近に通えるバスケットボールができる場をつくります。（任期中着手）

・札幌市は、屋内野球練習施設をつくります。（任期中着手）

・札幌市は、身近に通えるダンス、ヨガができるような場をつくります。（任期中着手）

・札幌市は、プロスポーツを応援し、プロを目指す子供たちがプロ選手と触れ合えるような機会をつくります。（任期中実現）

３　経済・雇用・観光

●札幌市に優秀な人を集め、大企業にイノベーションを促すと同時に中小企業との公正な競争を確保し、札幌市内で働く市民の労働生産性を大幅に上げる必要があります。現状の札幌は、企業としての稼ぐ力が落ち、リスクの回避とコストの削減に力点を置きすぎて、競争力が弱まり、オリンピックなどの巨大公共事業に頼らざるをえず、頼った大企業が経済界のトップとして君臨し続け、新興企業が育たないという悪循環に陥っていると考えます。雇用を大きく生み出すのは新規の起業です。大企業はいまだに雇用を減らし続けています。以下の政策が実現した場合、札幌市の景色は大きく変わります。地域の飲食店や商店は売り上げが上がり、一人ひとりがイキイキとしてくる、そんな風景に札幌は変わるでしょう。景気が東京より回復しつつある今しかチャンスはありません。景気が悪化している時はできない政策です。今までの経済の古いリーダーに頼ることなく、新しいビジネスリーダーを創出します。

・札幌市は、最低賃金を 1,500 円とします。国が決めた最低賃金を上回る地域最低賃金を決める権限を持つことができるよう国家戦略特区を安倍内閣に申請します。自治体や常時雇用が 300 人を超える大規模な社会福祉法人・医療法人・学校法人の最低賃金を 1,000 円、資本金 3 億円以上かつ常時雇用が 300 人を超える大規模民間企業の最低賃金は 1,500 円としていきます。最低賃金を決めるのは福祉政策ではなく、経済政策であり、イイダノミクスとさせていただきます。アベノミクスと合わせてイイダノミクスを実行することにより必ず札幌経済は大きく回復します。（任期中に申請）

・札幌市は、福岡市と同様の国家戦略特区の指定を国に求め、創業５年以内の企業の法人実効税率を 17%以下に引き下げ起業を促します。（任期中に申請）

●働く人のより一層の犠牲の下に成り立つような公との契約は市民の皆様も求めていないと考えます。公契約において女性の雇用、女性リーダーの数、ハンディキャップを持つ市民の雇用、　ハンディキャップを持つ市民のリーダーの人数の多さ、そして、雇用される市民の賃金水準を高く設定している企業に対し大幅な加点を行う入札制度に改革し、随意契約もその理念に沿ったものとします。

・札幌市は、公契約条例を制定します。（任期中実現）

●ハンディキャップを持つ市民に対する政策は福祉政策ではなく、経済政策と考えます。社会にいるすべての人に働く機会、学ぶ機会などを提供する社会、役割がある社会は強い社会と考えます。

・札幌市は、ハンディキャップを持つ市民すべての希望者を、就労支援員のサポートの下、市役所や区役所内で短期就労インターンとして受け入れます。（任期中実現）

・札幌市は、１人での通学が困難な小学生以上の障がい児がいる世帯に対し、都合で付き添いができない世帯の希望者に対し、月 30 時間の通学支援をします。（任期中実現）

・札幌市は、障がい者就労施設等からの調達を 1.7 億円の倍にします。（任期中実現）

●私は、再生エネルギーへの推進を減速させる泊原発の再稼働には明確に反対です。脱原発の想いを他の皆様と共有しております。

・札幌市は、国家戦略特区で送電発電分離を北海道にて先行採用をするよう国に強く求めていきます。（任期中通じて要求）

・札幌市は、公正な競争を迅速に促進し、消費者の利益になるよう、新電力会社を徹底的に支援します。（任期中着手）

●地下鉄と市電は、採算の取れない路線の延伸や運賃の値上げを見越した設備投資で、利用者の負担を増やすだけではなく、使わない市民にも公共料金の値上げという負担増として必ず返ってきます。市営ならではの赤字と市民の負担増の循環から脱するための政策を行う必要があると考えます。

・札幌市は、見積もりと現実とが大幅にかい離している市電のループ化をやめます。工事は途中であっても中止し、運賃を下げます。（任期中実現）

・札幌市は、民間ではありえない、朝の「積み残し」をやめるため、増便とピストン運行などで対応します。市民の皆様にやろうと思えば簡単にできることを証明します。（任期中実現）

・札幌市は、値上げにつながる税金を使った地下鉄の延伸はせず、運賃を下げます。（任期中着手）

・札幌市は、黒字化した市営地下鉄と市電を民間事業者にバトンタッチし、財政上のさらなるプラスにしていきます。（任期中、検討を開始）

・札幌市は、民間移管後の延伸を積極的に応援していきたいと考えます。（民営化後、検討を開始）

・札幌市は、バスの現在地情報と最寄りのバス停、時刻表を市民に広く知らせます。バス利用システムの構築を市が全面的に支援します。（任期中着手）

・札幌市は、国道 36 号線沿線で、バスの利便性向上を清田区から始めます。具体的には直ちにバスの便数を増やします。（任期中着手）

・札幌市は、バス停のフード設置を清田区と南区から始めます。（任期中着手）

●観光が市民の暮らしを犠牲にすることはあってはならないと考えます。市民の暮らしがよりよい暮らしになってくることこそが、観光需要を活性化し長続きさせることだと考えます。例えば、一律 200 円の宿泊税、直近の実績である約 1000 万泊の税収は約 20 億円となります。そのうち 3 割を観光予算のために積み立て、突発的な事象で観光客が落ち込んだ時に使います。また、日帰り入浴に課税をすることは観光の活性化からもよくないと考えます。

・札幌市は、日帰り入浴などの入湯税を廃し、宿泊税を導入します。（任期中着手）

・札幌市は、よさこいソーラン祭りを札幌市での独占開催とするのではなく、二年に一度は道内他市町村での開催を促します。その体制をつくるための必要な支援を行います。（任期中着手）

・札幌市は、北広島インターから清田区、豊平区、南区を経由し中央区へつながる高速道路を提案し国に強く働きかけます。（任期中通じて提案）

・札幌市は、札樽自動車道の全線フード化を提案し国に強く働きかけます。（任期中通じて提案）

・札幌市は、広報を民間に委託します。民間広告代理店や出版社の知恵を借り、政策の周知と観光需要の増加を図っていきます。（任期中着手）

・札幌市は、無料 wifi を直ちに整備する。（任期中実行）

・札幌市は、入湯税を廃止して、宿泊税を導入する。（任期中実行）

・●市民の生活が不透明な料金設定に左右されてはいけないと考えます。

・札幌市は、光熱費に関し、消費者につけこむ不当な料金設定がないよう、関係企業に働きかけ、モニターしてまいります。ライフラインには市がしっかり介入します。（任期中着手）

●正規雇用と非正規雇用の差別があります。同じ仕事をしているのに待遇が差別されている現状は変えなくてはいけないと考えます。

・札幌市は、市役所において非正規雇用の希望者は研修の上、正規雇用とします。（任期中実現）

・札幌市は、市役所において週あたり 15 時間以上勤務するものから正規雇用としてまいります。（任期中実現）

●電柱を固定資産税の対象からはずし、電柱税を復活します。税収を電柱の地中化に使うことは、市民にとって大きなメリットがあると考えます。

・札幌市は、市民のための電線地中化を強力に推進します。（任期中、検討を開始）

・札幌市は、国家戦略特区を申請し、土地利用規制、農地の規制を確たる基準のもと緩和していきます。農地をより自由に取引できるようにします。（任期中着手）

4　防災・防犯・情報公開・地域行政

●平成 27 年度の消防予算は約 44 億円と、前年度比 10%減額されました。観光地は一件の火災でもブランドが崩れることがあります。暮らしの安全のための費用である防火と防災、には予算をしっかりとつけていきたいと考えます。

・札幌市は、消防予算を戻し、防災のまち札幌として安全に暮らせるようにいたします。
（任期中実現）

・札幌市は、防災ヘリを二台同時並行に運用できる体制をつくります。（任期中実現）

●再犯の防止や貧困からの脱出は社会全体のために必ずなります。予算を配分するべきと考えます。

・札幌市は、ボランティアに頼っている保護司や民生委員の待遇改善を国に強く働きかけます。
（任期中通じて要求）

●市役所内の膨大な情報は、より多くの監視を必要としていると考えます。すべて公開されるとより公正な取引に近づくでしょう。

・札幌市は、領収書を原則黒塗りなしでインターネット公開します。（任期中実現）

●地域の拠点となるまちづくりセンター長の人選は、それをやりたいという人に任せてみるとより良い仕事をしてくれると考えます。

・札幌市は、まちづくりセンターを人口一万人に対して１つくらいとなるようにします。
（任期中実現）

・札幌市は、まちづくりセンター長を、若手の市職員も含めた内外から公募します。（任期中実現）

●すべての市民が等しい行政サービスを受けるべきだと考えます。

・札幌市は、東京都渋谷区と同じく同性パートナーシップ条例を制定します。（任期中実現）

●独り暮らしの市民が増える中、多くのペットの需要と要らなくなったペットが増えると考えます。

・札幌市は、ペットの殺処分停止に向けて検討を開始します。（任期中、検討を開始）

●超高齢化社会に向かう中、超高齢者の後見人などが多く必要とされてくると考えます。

・札幌市は、全国に先駆けて、市民後見人制度の充実された運用をします。（任期中通じて運用）